

## カイツブリの生態観察

張 順 鳳

浙江省農技師専

訳 福井和二

**摘要** 自然環境の変化により皖南<sup>ワンナン</sup>の黃山市三口地区のカイツブリ(*Tachybaptus ruficollis*)の分布域が拡大し、個体数も増加した。本文はこの地域のカイツブリの生息状況、形態、成鳥の生活習性、雛、卵、巢などについて明確に述べる。カイツブリが危険に遭うと親鳥は雛を翼で抱え込んで潜水し、逃走する。カイツブリの抱卵・孵化の熱源は彼自身の体温と気温によると認められた。

1960年代、筆者はかつて動物学教室での実習において、皖南の黃山市三口地区でカイツブリを調査対象としたが、当時カイツブリは非常に少なく、探し求めたものだった。鄭作新らのこの地区の鳥類調査報告にも、カイツブリの状況について詳細な紹介がなされていない。その後二十数年、発電、灌漑などの利用目的で、数多くの貯水池、ダム湖が建設され、自然環境に大きな変化を生じた。1991、'92年の夏、再びこの地を訪れ、カイツブリの個体数の増加と生息分布が拡大していることを発見した。筆者は1993年6月から8月にかけて、カイツブリの生態、習性を観察し、その資料を整理したので報告する。

## 1. 自然環境

三口地区は安徽省黃山市の東北部にあり、海拔204m、年平均降水量1487mm、気温15.6℃、無霜期間220日、周囲が山に囲まれ、中央は広大な水田の盆地となっている。その中を青屯街道と麻川河が貫いた形となっている。カイツブリの観察地点は麻川河、大字里、聯中、朱家井などで、麻川河の兩岸は開けた谷間で樹木が繁茂し、発電所のある溪流など、複雑な環境である。大字里、聯中と朱家井はいずれも丘陵地にあり、耕地や灌漑用の貯水池に囲まれ、周囲には樹木や竹林が密生した静かな環境である。カイツブリの生態観察には好適な場所である。

## 2. 観察方法

自然状態のもとに眼鏡および肉眼によるカイツブリの行動を詳細に記録した。必要に応じ成鳥、雛を捕獲し、卵および巢を測定、解剖を行い記録をとった。

## 3. 観察結果

3.1 成鳥；麻川河、大字里、聯中、朱家井で12羽の成鳥を観察し、内雄2、雌2、計4羽を採集標本とした。体長最小225mm(雌)、最大270mm(雄)であった。カイツブリの行動域にはよくヨシ、水草などが生えており営巢に使われる。

この鳥の体形は卵円形で、羽毛は柔らかい糸状をしており、全身が絨毛で覆われている。尾羽は退化しており、尾長は23mm前後で、見た目にはほとんど尾羽がないように見える。翼は短く、翼長105~107mm。両足は鉛黒色で体の後方、尾端近くにつき、指には大きな水かきがついており、ふ跠長34~37mmである。よく泳ぎ、潜水する。潜水時間は3~45"と一定ではなく、潜水距離も1~10mと一様でない。驚いた時以外飛ぶことは少ない。朱家井木瓜壩ダムの観察で、成鳥が何かに驚き、急に水面から飛びたち、はじめ極めて低く、水面に幾つかの波の輪を残し、羽ばたきながら高度1~2mで飛び去るが、いつかまたもとのところへ戻っている。麻川河の幾つかの場所での観察でも水面を直線飛行する様子が同様に見られ、銃声を聞くと即刻潜水した。ただ、やむを得ない状態にならないと飛び立たない。飛ぶときは体を斜め前方に伸ばし、両脚を

船の舵のように後方に伸ばして飛ぶ。胃の剖検では主要な食物は昆虫、昆虫の幼虫と小魚等であった。

6月21日、聯中二号貯水池でのつがい親鳥の観察中、巣から20m離れたところで銃で撃たれた1羽の斃死体を回収した。水中から取り上げたとき、翼の下に1羽の雛がいるのを発見した。体長83mm、体重13g、潜水することができた。これは親鳥が危難に直面したとき、翼の下に雛を抱き、潜水して逃走することを実証している。

3.2 雛鳥；6月19日、聯中1号貯水池で同巣の雛3羽を捕獲(大きい1羽は逃走)して、体位を測定したが個体差が大きく、体長102mm, 102mm, 130mm, 体重21.6g, 43.5g, 68.8gであった。カイツブリは産卵初日から抱卵に入ることにより、体長、体重に大きな差ができるものと思われる。

6月21日、聯中2号貯水池でカイツブリ卵3個(1個破損)を採取し、孵卵器に移したところ、その晩に1羽が孵化した。目は開いており、黒色の絨毛に覆われ、水に入れると、すぐに泳ぐことができた。解剖によれば腹腔内に0.35gの卵黄が残っており、他の1羽には0.1gの卵黄があった。これによって孵化後、3~4日経ってから餌を摂ることとなる。この2羽の雛の嘴端に卵歯が着いており、孵化後3~4日の間は消失しない。

カイツブリの雛の測定 単位mm

|      | 体重(g) | 体長  | 翼長 | 嘴峰  | 嘴裂   | ふ蹠 | 趾  | 卵歯 | その他       |
|------|-------|-----|----|-----|------|----|----|----|-----------|
| 雛-01 | 21.6  | 102 | 15 | 8   | 12.5 | 17 | 18 | 消失 | -         |
| 雛-02 | 43.5  | 120 | 17 | 10  | 15   | 23 | 25 | 消失 | -         |
| 雛-03 | 68.8  | 130 | 18 | 11  | 16   | 25 | 27 | 消失 | -         |
| 雛-04 | 13.0  | 83  | 13 | 6.5 | 9    | 14 | 14 | 有  | ・ 卵黄0.1g  |
| 雛-05 | 9.0   | 71  | 13 | 6   | 8.5  | 13 | 13 | 有  | ・ 卵黄0.35g |

3.3 卵；楕円形、両端は同じ形をしており、一端がやや鈍円形である。卵殻は青灰色、表面に汚れたような不規則な黄褐色の斑点がある。長径38mm、短径25mm、卵重8.3g。

3.4 巣；浮巣である。6月16日から24日までに聯中、朱家井、大字里の貯水池において前後12個のカイツブリの浮巣を観察した。浮巣はヨシやイクサなどの水草の中に作り、浮巣の周囲の水域は開けたところで、水草の高さは水面から40~50cmあり、水流はなく、水深0.8~2.3m、巣の高さは水面から5~6cm、巣はヨシなど柔軟な細い水草を交互に絡み合わせて作られている。巣内のくぼみには繊細で柔軟な水草の茎が敷いている。6~7卵を産み、卵の上には雑草が敷いてある。巣の形状は逆さの円錐形をしており、水面下ではヨシや水草につながれ、水位の変化により巣は浮動し、小幅に左右に揺動するが、風により流されることはない。水面の露出部分は平らで中央は円形に窪み、その直径は10~12cm、窪みの深さは1~2cm、巣の外径は45~50cmである。

#### 4. 考察

4.1 カイツブリは孵化直後から目が開いており、全身絨毛で覆われ、よく泳ぐ。腹腔内の卵黄は0.35gであった。雛-04号の体重は13gで腹腔内の卵黄は0.1g。早くから潜水するのが見られ、早成性の鳥である。

4.2 巣の上および窪みの中は乾燥し、湿気により巣材の腐蝕は見られない。人工孵化は可能である。筆者は孵化の熱源は親鳥の体温と気温によると考える。1935年Bakerは「孵化の熱源の大

方は巢材の発酵熱による」と言っているが、全面的に見直さなければならないだろう。卵に蓋をする習性は卵の保温のためであり、また、天敵防御のための適応と考える。

4.3 孵化直後の雛には卵歯があり、3～4日は消失しない。04号の雛標本の腹腔になお卵黄が残っていたが、すでに採食をしており、ヤゴ、バッタ、その他昆虫の残骸がみられ、その食物量は1.5gであった。

4.4 三口地区にカイツブリが増加し分布範囲を拡大したのは、この地区において水利開発が進み、貯水面積が拡大したためカイツブリにとって格好の生息場所を提供したうえに、毒性の低い農薬が使われ始め、鳥類に対する危害が減少したことが原因と思われる。このことは、環境の改善と鳥類の種および個体数の増減が密接に関っていることを示している。

#### 訳注

\* 皖とは、安徽省の別名、皖南とは特に安徽省の長江以南の土地をいう。